

本校にとって最後の卒業生となる二三九名の皆さん、卒業おめでとうございます。当初予定していた日に挙行できなかったものの、こうして皆さん一人一人の顔を見て卒業を祝うことができるのは、本当に「ありがたい」ことだと実感しています。

「ありがたい」の反対語は、「あたりまえ」とか「ありふれている」という言葉です。「有り難い」は、そもそも「存在することが困難だ」という意味であり、言い換えると「滅多にない」ということです。私たちは普段の生活をつい「当たり前」だと思っていませんか？

食事が取れるのは当たり前、健康でいられるのも当たり前、友達と仲良くできるのも当たり前、などなど。

しかし、現在のような困難な状況に置かれると、実はそういったことが必ずしも「当たり前」とは言えないのだと気づかされます。食事が取れて「有り難い」、健康でいられて「有り難い」、友達と仲良くできて「有り難い」。普段は「当たり前」だと思っていたことが、実は「有り難い」ことだったのだと分かります。だから、今日こうして皆さんと会えたことは、とても「有り難い」ことなのです。

皆さんは、入学以来、度重なる大きな逆境の中でも、文化祭や体育祭、修学旅行や球技大会など、いくつもの学校行事に全力で取り組み、それらをとことん楽しみながら、己を磨き、仲間意識を育み、自らの進路目標に前向きに努力してきました。それは決して「当たり前」のことではなく、「有り難い」ことです。それこそが西高生らしさであり、皆さんは最後まで西高らしさを体現してくれました。

これから先の人生においても、皆さんは大きく様々な困難に直面することでしょう。その時に周りから「どうしてあなたは、いつもそんなに前向きに考えたり行動できたりするのか？」と訊かれたら、胸を張って答えましょう。「だって大宮西高校の卒業生ですから。」

大宮西高校は、あなた方の卒業をもって閉じることになります。でも、大事なことは、大宮西高校は皆さん自身の中に在り続けるということ。今ここにいる一人一人の心の中で、大宮西高校はいつまでも母校であり続けるということ。だから We are Omiya West!

西高の最後の卒業生が、あなた方で良かった。あなた方全員を、西高の最後の卒業生として、今日こうして送り出せることを、私たち教職員は誇りに思います。これからもずっとあなた方の前向きな活動に、あなた方が作る「よりよい世界の未来」に期待し続けると申し上げて、さいたま市立大宮西高等学校卒業証書授与式、最後の式辞といたします。

令和二年三月十六日

さいたま市立大宮西高等学校 第十六代校長 関田 晃